

あし

ハイキングクラブ



ちんぐるま

第321号

2016年7月14日発行

先月の山行

- ☆ 6月12日 (日) 鈴ヶ岳 山行報告参照
- ☆ 6月26日 (日) 鷲ヶ岳 山行報告参照

7月の予定

- ☆ 10日 (日) 伊吹山
- ★ 14日 (木) 例会
- ☆ 18日 (祝) 村国山 妙法寺山 7時30分
CL 荒川勝巳
- ☆ 30日 (土) ~ (日) 妙高山 4時30分
CL 宮本重信 会員カード持参
黒沢池泊9千円

8月の予定

- ★ 4日 (木) 納涼会 目からウロコ片町 5千円
- ☆ 11日 (祝) 三方岩岳
CL
- ☆ 28日 (日) 称名滝
CL
- ☆ 9月11日 (日) 岩ごもり山縦走 in 敦賀
CL
8日 (木) 例会

山行申込み方法

- ・山行申込みの基本は例会時です。
(都合により例会に出席できないが、山行込みをした場合は、例会当日20時半頃、宮本の携帯090-8260-8108へ連絡してください。)
- ・例会時に未定であったり、山行申込済で都合によりいけなくなった場合は、前々日夜までに山行リーダーへ直接連絡してください。

山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

山行報告

鈴ヶ岳 1174m

日時 2016年6月12日曇り



今日は銚子ヶ峰の予定でしたが、天候の関係で鈴ヶ岳に変更になりました。

6時雪研集合。今日は7名での山行です。

金津ICで伴藤さんと立田さんを乗せて、8線を小松市に向かって進む。粟津温泉を通り抜け、せせらぎの郷を目指す。赤瀬ダムでトイレ休憩です。上大杉から林道に入る。登山口まで9Kmの標識あり。以前は登山口まで砂利道だったそうですが、今は登山口まで舗装されています。登山口に着くと軽トラが2台止まっていた。支度をしていると3台車が上がって来た。7台で満車状態になった。

出だしは多少の急坂ですが、程なく緩やかな登りになる。熊の出没が多いのか、人の存在を知らせる鳴りものがぶら下がっている。初めは木片を木で叩くもの、次はドラム缶、最後は拍子木に変わっていく。立田さん、やけくそに叩いていきます。これでは熊も出てこないことでしょう。

百間滝の分岐に出る。百間滝は帰りに行くことにする。体力温存？ここから出作り小屋まで急登です。急登の横から加賀平野が見える。だいぶ登ってきた。ようやく出作り小屋が見えた。小屋の手前に水芭蕉の群生が見られるそうですが、シーズンはすでに終わっており、ススキで埋め尽くされていた。小屋に着くと友清さんが鐘を鳴らした。透き通る様ないい音色です。小休憩で

す。小屋の中は綺麗に整理されていた。小屋の前に石が置いてある。この石は『石は頂上の土砂流出防止に使います。1個運んでもらえば幸いです』と、メッセージあり。う～ん、誰かに任せよう！小屋の奥にニコウキスが咲いていた。思わず撮影。

出作り小屋からは急登が続く。急登の途中にブナの大木幹周り 4.4m 高さ 20m の標識あり。皆で探したが見当たらず。帰りに再度探すことにして先を急ぐ。ここからさらに急登になった。尾根に出た。白山の頂上は雲に覆われていたが、まだらの残雪が見える。尾根の前には兜山が見える。兜山の頂上からの展望はないそうです。ここで伴藤さんからメロンの差し入れです。甘く冷たく大変美味しくいただきました。

ここからは尾根歩きです。やがて頂上に着く。でも皆は頂上を通過して、カタクリ小屋を目指す。途中ダックスフンドを連れて登山者とすれ違う。柴田さんが感激している。職業柄気になるのでしょうか？なかなか小屋に着かないので、皆が疑心暗鬼になってきた。と思っていたら、赤い屋根が見えた。カタクリ小屋です。小屋に着くが、暑いので日陰の登山道で昼食です。今日はソーメンです。冷たくて美味しい！伴藤さんありがとうございます。ソーメンを食べた友清さんが、後で追いつくので先に下山してくれと言い残し、大日山まで走って行った。

下山開始。頂上の手前に『花立の岩』の標識あり。荒川さんが見に行こうと言う。リックを降りし、クマ笹で道の分からない急坂を下る。クマ笹を持たないと、落ちて行きそうだ。『怖い～』立田さんと柴田さんが声を上げている。何と岩の上に荒川さんが両手を上げて立っているではありませんか。その様子を見てのことです。岩に着くと、清水さんが登っていた。でも、恐怖で座りこんでしまった。その後に伴藤さんが登る。でも清水さんが居るので先に進めず、岩を降りる。清水さん、登るより降りる方が難しい。何回も足元を変え、慎重に降りる。岩の上ではすれ違いが難しいので、荒川さんと交代で登る。岩は先端が尖っていて、幅 50cm 位でしょうか、先に行くほど狭くなっている。そこからの光景は絶景です。岩の下は何もありません。宙に浮いているようです。スリル満点。気持ちいい風がすり抜ける。なんとも言えないいい感じ。戻りはクマ笹を掴みながら登る。

頂上で記念撮影。でも友清さんがいない。残念です。頂上を後にしてしばらくすると友清さんが追いついた。何とカタクリ小屋から往復 70 分かかる所を 45 分で行って来たそうです。65 歳の超人ついていけません。

ブナの大木の標識まで降りてきた。再度皆で探す。友清さんが見つけた。頂上を背にして左手遠く奥にそれらしい大木が見えた。多分あれだろう。荒川さんが何とか行こうとするが道分からず断念する。

百間滝の分岐まで着く。リックを降りし、滝を目指す。道幅が狭い。急だ！2名脱落。友清さんと伴藤さん

が畑で野菜を収穫するように水ぶきを採取している。清水さんと二人で先に進む。道がよくわからない。そして急坂。分岐から 20 分位のところで、細い滝が反対の山から落ちている。あれが『百間滝』？苦勞して登って来たのに……。帰り、川を渡る時の撮影をしようと考えた。なにか滑る予感がした。でも撮影しながら進む。案の上滑った。冷たい、両足が川の中に入った。靴の中がびしょ濡れです。

出作り小屋に着く。水場があるとのことで飲んで見るが、冷たくも無く美味しくも無く、普通の水でした。小屋を出て意外にも早く登山口に着いてしまった。

鈴ヶ岳は花立の岩があったおかげで良い山行になりました。

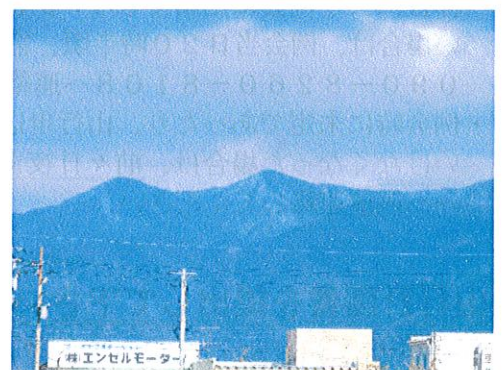
帰りは瀬領温泉です。料金 370 円驚きの料金、施設も露天風呂、サウナ付きでこの安さ、ビックリです。今日は蒸し暑く大量の汗をかいたので、一段とスカッとした温泉でした。

「編集後記」

6 月は 7 月の嶺北消防操法大会出場につき毎週土、日は 5 時から練習をしていました。

指揮官が「火点は前方の標的・・・」と目を向けるとその奥中央に丈競山 1 0 4 5 m が見える。早朝なのでとても綺麗！ささやかな楽しみにしていました。

来年は福井県操法大会に出場です。^^；



spvd9w29@ivy.ocn.ne.jp に送信ください。

畑中義和

鷲ヶ岳 (769m)

6月26日 参加者 会員12名 一般参加者5名

報告者 宮本重信



永平寺町と勝山市にまたがる三角錐の山。

元あしの会員で、県連盟の事務局長を10年近くやってくれたTさんが山中間の一人の仲介で参加。また、過日の”考”座参加のSさんが3名を誘って参加され、総計17名。過去最高の参加数ではないだろうか。

前日の天気予報に反して、朝6時頃にかかなりの雨が降りだし、Tさんから決行かとCメール。テレビデジタルデータで確認する。やがて良くなりそうで、12時には晴れというので決行。数年前にKさんと残雪時に登ったが、それ以外は20年ぶり。

歩き始めて、雨もなく、カップを着たメンバーは暑くて脱ぐ。すると直ぐに雨が降り出す。カップを着ると暑い。雨傘が重宝でした。降雨の中、まだ登るのか、一人だったらまず下山だと思いながら登る。稜線にでると、登山道も良く、登りも緩くて楽。2時間を過ぎて頂上。頂上は降雨が激しく、風もややあってじっとしていると寒い。見晴らしの良い分、風も強い。新田義貞の死後もその家臣がここで奮戦したと記された板もそこそこに読んで、昔は狭い日本のこの地でも文字通りの死闘だった。今は国内ではそのようなことは無くなった。武力は非合理だからまだ年数はかかるだろうが、やがては国と国でも武力は無くなるだろうと思いつつ下山。樹林内は、頂上と異なって降雨は小ぶりだった。

ほぼ下りた林道で、晴れ間も見えだしたので、Bさんのいつものおいしい野菜たっぷりの水餃子を調理する。濡れた体が冷えたことで、温かくておいしい。コーヒーも頂き、まあ、こんな山登りも、仕方がない、安全にけが無く下山したことに満足。

日射しの中、禅の湯から山をみると、頂上手前の稜線の凹みが分かり、一端下った地点が分かる。 M記

上昇への道の証明

報告者 荒川勝巳

6月18日のハイキング「考座」は計42人(会員15、一般27)の参加。満席で成功した。取り組みのさなかに2人の新会員をむかえ、福井新聞が初めて記者取材をして写真入りの記事をのせた。これでアシHCのかかわった入門講座、上達講座、雪山講座、登山技術講座、全5講座すべてが満席で成功をおさめたことになる。これは登山愛好者の中に、根深い要求があることを表していると同時に私達がそれに答えてゆくならばもっともっと信頼できる山岳グループとして成長できる。ことも示している。

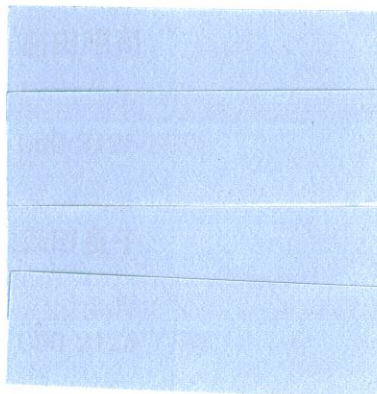
今回は自前の一般申し込みが6人と、これまでの半分にも届かなかった。文化講座風では集まらないか、もっと実利のあるノウハウのような内容にすればとかテーマがバラバラでこれなあに?といわれ私も30人ぐらいを覚悟していた。ただし登山口でのチラシ配布、マスコミへの広報依頼とか宣伝は最後まで手を抜かなかった。

あにはらんや開講時刻には会場いっぱい。宮本会長の融雪の話とか私の宇野重吉の話とか、直接、山に関係ない部分にも熱心に耳を傾けてもらった。一言でいって、良い聴衆に恵まれ。登山者は、文化愛好者であることも証明されたと思ふ。加藤さん鈴木さんもそれぞれの得意分野を堂々とお強しいいただいた。あしHCがなかなかの役者ぞろいであることも証明したと思ふ。

何事もそうであるが、今のままでいいということは下降線をたどってゆく。たえず何か新しい事に取り組んで周りを考え自らを変えてゆくことが楽しみを深める上昇線の道である。そこへ貢献できる一人の人間としてボクはありたいと思っている。

6月26日鷲ヶ岳登山は全17名「アシ12、他5」で雨の中はあったが賑わった。

入会しました。



宜しくお願い致します。